

## 2019年度 平成31年度（令和元年度）事業報告書

一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟

### （概要）

当連盟は、平成25年4月1日付にて「非営利型の一般社団法人」への移行認可を得て新法人として発足、定款第5条に規定される諸事業を実施した結果、3年間で「公益目的支出計画の実施を完了して、平成28年12月12日付にて「公益目的支出計画の実施完了の確認書」を内閣府より受領しました。

一昨年度からは、内閣府への公益目的支出計画書の提出や実施報告書の提出義務はなくなりました。

当連盟の継続事業として、定款第5条に規定される各事業を前年度と同様に計画して実施しました。

### （事業活動）

#### 事業1. ジュニアヨットクラブの普及活動と競技会開催に関する事業

（定款第5条 第1項 第3号及び第7号）

##### 1. 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2019（若洲大会）

8月2日（金）～4日（日）、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所を会場に、東京都ヨット連盟との共同主催にて、2年振りに東京で開催しました。

本年も独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を頂きました。

アサヒ飲料株式会社からの協賛を頂き、競技会期間中の飲物を提供出来ました。

常連のニュージーランド、オーストラリア、韓国に初参加の台湾の海外4カ国から選手13名、指導者・保護者6名の計19名を招聘しました。

これにより、国内11クラブ、海外4チームの84名（OP級初級者16名、OP級上級者45名、レーザー4.7 9名、国際420級6艇14名）の選手に、指導者・保護者60名余、運営役員80名余の合計220名に近い規模となりました。

4年前の競技会から、シーマンシップに溢れた選手、指導者、クラブを表彰する「小澤吉太郎特別賞」を設けましたが、本年度は個人としては沖縄県石垣島から参加の石垣ジュニアヨットクラブの星野蘭さんに授与されました。

国内クラブ対抗レースの上位3クラブには海外セーリング研修派遣資格各1名授与（渡航費援助）のJJYU会長特別賞を設け、葉山町セーリング協会、夢の島ヨットクラブ、江東区立小中学校セーリング部に授与されました。

今回、初めて「健康状態チェックシート」を作成し、競技開始前に外国チームを含め全チーム、コーチに配布しましたが、使用目的や回収方法などが周知徹底されておらず、毎朝の参加選手の健康状態を把握することが出来ませんでした。使用方法等については今後の課題となりました。

##### 2. 第29回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ（ミキハウス°東京2019）

9月8日（日）、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所を会場に、三起商行株式会社（ミキハウス）の特別協賛と大塚製薬株式会社の協賛を頂き、東京都ヨット連盟との共催で開催予定でしたが、台風15号の北上、関東地方接近の情報を踏まえて、直前

ではありましたが、9月6日（金）、特別協賛会社の三起商行株式会社（ミキハウス）様ともご相談し、共同主催者の東京都ヨット連盟とも検討した結果、本年は開催を中止することを決定し、参加クラブ、後援団体、協賛企業等へ連絡をしました。参加申し込みはOP級初級者23名、OP級上級者27名、レーザー4.7 8名の合計58名の選手に指導者・保護者57名、幼児3名でしたが、参加料を全額返却しました。

### 3. 第6回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ（ミキハウス杯 大阪2019）

10月20日（日）、今年も大阪府貝塚市の二色ハーバーで、三起商行株式会社（ミキハウス）の特別協賛と大塚製薬株式会社、株式会社フォーチュンの協賛を頂いて、大阪府ヨットセーリング連盟との共同主催にて開催しました。

ミキハウス社様からは光川彰夫取締役社長室長にご出席頂きご挨拶と表彰授与をして頂きました。後援の公益財団法人日本セーリング連盟から副会長の桑原啓三様もご出席頂き激励のご挨拶を頂きました。

地元の大阪をはじめ、和歌山、兵庫、滋賀、香川、三重より選手39名の参加がありOP級上級者クラス18艇、OP級初級者クラス21艇の内訳となりました。

クラブ対抗レース優勝（海外セーリング研修への参加資格授与）はB&G高松海洋クラブとなりました。

### 4. 第7回ジュニアヨットクラブジャンボリー

ゴールデンウィークの5月3日（金・祝）～5日（日・祝）の2泊3日の日程で、茨城県行方市の鈴木周也市長はじめ市役所のご協力を頂きました。昨年に引き続いて、宿泊を茨城県立白浜少年自然の家を利用致しました。活動場所は天王崎公園を会場に変更し、茨城県セーリング連盟と、天王崎公園を活動拠点としている麻生ヨットクラブも加わって頂き、3者の共催で開催しました。

5クラブの参加で選手12名（男子7名、女子5名）、指導者・保護者16名、幼児5名、役員・コーチ7名に麻生ヨットクラブから3日間11～13名延べ30名の総勢50数名の参加となりました。

今年は海洋活動拠点と宿泊施設が近くなったことで、運営も円滑に進み無事終了出来ました。

## 事業2. 諸外国との交流・親善に関する事業

（定款第5条 第1項 第4号）

### 1. 外国チームの招聘事業

毎年開催している「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会」に外国チームを招聘し、交流と親善を図っています。今年はニュージーランド、オーストラリア、韓国に初参加の台湾の4カ国、選手13名、監督・コーチ・保護者9名の計19名を招聘しました。

初参加の台湾については、石垣ジュニアヨットクラブが交流のある台湾の宜蘭懸蘇澳鎮 岳明小學校を招聘することになり、選手4名に指導者2名が参加しました。

### 2. 海外セーリング研修派遣事業

（1）8月開催の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2019（若洲大会）」の国内クラブ対抗レースの上位3クラブに、渡航費の一部を援助して海外セーリング研修の派遣に参加する資格を授与する会長特別賞を本年度も設けました。

特別賞を授与されたクラブは第1位 葉山町セーリング協会、第2位 夢の島ヨットクラブ、第3位 江東区立小中学校セーリング部でした。

又、9月開催の「ミキハウスカップ東京2019」は開催中止となりましたが、10月開催の「ミキハウスカップ大阪2019」の優勝クラブ、B&G高松海洋クラブにも海外セーリング研修参加資格を授与する特別賞が授与されました。

本年度は、2大会の特別賞受賞クラブの選手を合同で西オーストラリアのパスに派遣することとなり、令和2年1月29日（水）～2月5日（水）、塩野崎常務理事、小野澤理事、青山理事が引率して、選手の往復渡航費用を連盟で負担支援しました。

各クラブからの希望もあり、費用自己負担で各クラブ1名の追加参加を認めましたので、葉山町セーリング協会2名、夢の島ヨットクラブ2名、江東区立小中学校セーリング部2名、B&G高松海洋クラブ2名の合計8名となりました。

クラブの保護者も1名参加しました。

本年度も、「公益財団法人業務スーパージャパンドリーム財団」の補助金を頂く事が出来て、財政的に助かりました。

### 3. 外国ジュニアヨットクラブとの交流親善事業

公益財団法人日本セーリング連盟特別加盟団体の「外洋三崎」他3外洋団体と神奈川県セーリング連盟の共同主催で、「2019-2020 日本一パラオ親善ヨットレース」が開催されることとなり、一昨年12月に、このレースとパラオでのジュニアヨットクラブ育成への協力要請を受けました。

主催団体側は、国際外洋レースが長い間実施されていないので、国際外洋レースの復活と共に、このレースのゴール先のパラオにジュニアヨットクラブを育成して、日本とパラオの交流親善を深めて行きたいとの考えから、パラオでのジュニアヨットクラブの創設、指導育成に協力して欲しいという要請でした。

本事業推進については、連盟自体としての資金的支援は難しいが、何らかの資金的後押しがあれば人的協力は可能ではないかと考え、窓口の公益財団法人日本セーリング連盟外洋三崎や神奈川県セーリング連盟とも打ち合わせて、パラオにOP級ヨットの贈呈（神奈川県セーリング連盟が取り纏め20艇）、指導者の派遣（神奈川県セーリング連盟と当連盟）等についての協力をしました。

「2019-2020 日本一パラオ親善ヨットレース」は12月29日横浜ベイサイドマリーナ沖スタートで7艇の参加で、トップフィニッシュは2020年1月8日で最終フィニッシュは11日でした。

スタートの前日には、パラオのジュニアセーラー6名と日本のセーラー6名（横浜ジュニアヨットクラブ、江の島ヨットクラブジュニア）とで、横浜市金沢八景島でOP級ヨットで親善ヨットレースを行い、その後前夜祭が行われました。

### 事業3. ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業

（定款第5条 第1項 第1号、第2号及び第5号）

#### 1. ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業

##### （1）管理運営及び安全確保に関する指導事業

令和元年6月8日（土）開催の令和元年度定時総会終了後の午後に指導者研修会を開催して、ジュニアヨットクラブの管理運営及び安全確保に関する指導をしました。

又、令和元年8月2日（金）～4日（日）東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所で開催の日本ジュニアヨットクラブ競技会2019の開会式後に、選手、指導者、運営役員を集めて、丸山晴久理事（医事委員長）と川副陽子委員（医事委員）による熱中症対策その他の安全講習会を開催しました。

競技会中日の3日（土）に指導者研修会を安井清副会長の講師で開催しました。

令和元年1月18日(土)開催の令和元年1月度理事会(平成31年度第五回理事会)の終了後の午後に指導者研修会を開催しました。講師として公益財団法人日本セーリング連盟専務理事の川北達也氏に依頼をし、両連盟共通の問題として、ジュニアセーラーを増やし、セーリングを普及させる方法についてを中心に、ジュニアヨットクラブの管理運営及び安全確保も含めて討議をしました。

(2) 指導者の養成事業

連盟の公認指導員制度に従って、各クラブから新規公認申請の募集を行うと共に、4年毎の更新認定の募集を毎年行っています。

平成29年2月18日付けにて改訂発効した「ジュニアヨットクラブの公認指導員認定に関する細則」に従い、令和元年8月3日(土)、国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2019の期間中に東京海員会館会議室で指導者研修会を開催し、競技会参加の指導者、保護者で受講した1名の方を新たに公認指導員に認定しました。

(3) 管理運営及び安全確保に関する調査研究事業

本年度は特に調査研究する事業がありませんでした

事業4. 広報誌「ユースセーリング」の発行事業

(定款第5条 第1項 第6号)

ジュニアヨットクラブに関する広報活動の内、ホームページによる広報活動は連盟の通常活動として実施しており、従来よりも充実して来ています。広報誌「ユースセーリング」の発行事業も本年度は令和2年3月に、第88号を発行することが出来ました。

今後は毎年10月発行を目標に出来るだけ早い時期の発行に努力して行きます。その他の通常活動として、希望する事前登録メンバー(正会員、特別会員、登録クラブの指導者、保護者、ジュニアセーラー他セーリング界関係者)に「JJYU通信」をE-mailやファクスで発信していますが、本年度は発信出来ませんでした。

(会員、クラブの状況その他)

(1) クラブの代表者である正会員は令和2年3月31日現在26名、学識経験者である正会員は24名で正会員の合計は50名です。

(2) 登録クラブ数は令和2年3月31日現在26です。  
サポーター会員登録者は5名です。

(3) 特別会員は、昨年度と同じアサヒグループホールディングス株式会社、株式会社ライフサイエンス研究所、株式会社三洋物産、株式会社三洋販売、隅田倉庫株式会社の5企業です。  
(令和2年3月31日現在)

(4) 連盟会長表彰

当連盟の定款に定める目的及び事業に照らし、その業績が顕著な者或いはジュニアヨットクラブ等の団体を連盟会長名をもって行う表彰制度を、平成28年度から発足しました。

令和元年度の表彰者について2回の表彰委員会で審議の結果を、令和元年5月15日開催の令和元年度第一回度理事会に諮り、箱守康之氏(YMFSジュニアヨットスク

ール葉山 代表者) 及び井上義朗氏 (葉山町セーリング協会 会長) の2名が決定しました。

表彰式 (表彰状、記念品の授与) は、令和元年6月8日 (土) 開催の、令和元年度定時総会終了後に東京都中央区晴海の東京海員会館会議室に於いて行いました。

また、5月開催のジュニアヨットクラブジャンボリーで、2年間に亘り共同主催者として大変ご協力を頂いた茨城県霞ヶ浦の麻生ヨットクラブ (代表者内田正規氏) に感謝状を授与しました。(授与式は小峰実氏が代理出席)

また、公益財団法人日本セーリング連盟の平成31年度定期表彰については、当連盟より推薦した金矢泰弘氏 (松島名取ジュニアヨットクラブ代表者) が優秀指導者賞を授与され、令和2年1月25日 (土)、東京夢の島マリーナで開催の全国加盟団体代表者会議に於いて表彰式が行われました。

以上